

どんな人が関わってるの？ 生の声を聞こう！

真庭なりわい塾イベント

真庭なりわい塾には、どんな人が参加しているのでしょうか。卒業生や講師、そして地域にIターンした人の、生の声を聞いてみませんか。スペシャルゲストとして田村陽至氏(ブーランジェリー・ドリアン店主)をお迎えし、2地域で開催します。

日時 2022年4月23日(土)〈岡山国際交流センター〉 13:30~16:30
2022年4月24日(日)〈大阪市立住まい情報センター〉

参加費 無料 定員 60名(要申し込み)

※詳細はwebサイトをご覧ください。

どんな地域? 実際に訪れてみよう!

現地見学・説明会

塾のフィールドである、真庭市中和地区を訪ねてみませんか? 塾長の洪澤寿一(NPO法人共存の森ネットワーク理事長)はじめ、地域にU・Iターンしたスタッフが皆さんをお迎えします。広々とした田園風景に里山、素敵なカフェ、小学校(コミュニティ・スクール)など地域の取り組みも必見です。

日時 2022年5月7日(土)/8日(日) いずれも13:00~15:30

場所 蒜山なごみの温泉 津黒高原荘(JR津山駅より送迎あり)

参加費 無料 定員 30名(要申し込み)

真庭なりわい塾 第6期 募集要項

申し込み締め切り
2022年
5/12
(木)必着

期間 2022年6月~2023年1月
※月1回の現地講座(土日開催)

場所 岡山県真庭市中和地区

定員 20名程度

応募条件 20歳以上の方

受講料 2万円(初年度)※学生1万円

アクセス 自家用車 現地(真庭市中和地区)まで、
大阪から約3時間半/岡山から2時間

津山駅より
送迎あり

JR・高速バス 津山駅まで、大阪から3時間/岡山から1時間半

宿泊 コミュニティハウスに宿泊可

応募方法 Webサイトの「応募フォーム」より、お申し込みください。
(書類選考後、5月20日~23日の期間で、オンラインによる、
簡単な面接を予定しています)

締め切り 2022年5月12日(木)必着

お問い合わせ 真庭なりわい塾事務局

連絡先 〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2
真庭市交流定住推進課内(担当:小藤、植田)
Tel.0867-42-1179 Fax.0867-42-1353
mail:maniwa.nariwai@gmail.com

※開催にあたっては、国や各都道府県の方針に従い、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行います。状況により開催内容がオンラインに変更・延期・中止になる可能性があります。あらかじめご了承ください。最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。

まずはWebサイトへ 真庭なりわい塾



SNSも!



岡山県真庭市とは

真庭市は平成17年に9町村が合併し、誕生しました。市の北部には蒜山高原が広がり、日本一を誇るジャージー牛の乳製品は全国的に知られています。南部は農林業が盛んで、泉質良好な湯原温泉、のれんの町並みで知られる勝山町並み保存地区などがあります。

良質なスギ・ヒノキを産出する林業、木材加工業が盛んで、市の象徴であるバイオマス産業を支えています。近年、出力1万キロワットの木質バイオマス発電が稼動。「里山資本主義」の先進的取り組みとして、全国から注目を集めています。



中和地区について

真庭市北部に位置する中和地区(旧中和村)は、人口600人弱。蒜山高原の片隅に位置し、田んぼと里山の穏やかな風景が広がります。

小惑星探査機「はやぶさ」の帰還祈願で有名になった中和神社と中和小学校が地区の中心にあり、里山学習の拠点施設である「津黒いきものふれあいの里」は、生物多様性が特に豊かなエリアであると国が選定。隣接する宿泊施設には温泉加温用の薪ボイラーがあり、住民有志が結成した薪生産組合が燃料を供給しています。

自然が豊かで人間味あふれる地域は、移住希望者にも人気です。自然農法に取り組む家族、捨てないパン屋、おしゃれなカフェ、こだわりのソバ屋、手づくりの豆腐屋、森林教育を実践するメンバーなど、毎年のように新たな移住者が増えています。



なりわい塾 2022

こんな人が塾生です!

- 今の働き方を変えたい。
- 半農半Xな暮らしをしたい。
- 農山村に移住するきっかけがほしい。
- 地域資源を活かした
スモールビジネスに関心がある。
- 農山村と都市をつなぐシゴトがしたい。
- フランクに語り合える仲間がほしい。

主催:真庭なりわい塾実行委員会
(岡山県真庭市・中和地区・NPO法人共存の森ネットワーク)

詳細・申し込みはWebで!

真庭なりわい塾

農山村には1000の「なりわい」があります。

真庭

岡山県真庭市
中和地区
にて開講

第6期生募集中!

お金ばかりに頼るのではなく、自ら「つくる」暮らし。
—どこで、誰と、何をするのか。
これからのライフスタイルを
一緒にデザインしてみませんか。



真庭なりわい塾とは・・・

岡山県真庭市の農山村エリアをフィールドに、はるか昔から紡いできた暮らしに学びながら、これからの農山村と新たなライフスタイルを模索する人材育成塾です。



多様な「なりわい」で豊かな暮らし方を目指す中和地区。真庭なりわい塾で、漠然とした「想い」をカタチにしていきたいませんか。

カリキュラム

2022年6月～2023年1月

地域を歩いて、見て、聞いて、農山村の暮らしへの理解を深めるとともに、個々の「なりわい」をイメージし、キャリアプランを描いていく全8回の講座です。

プロジェクト企画・実践

- くらし 自然の恵みを活かした暮らしを創る力
- 稼ぎ コミュニティビジネスを創造する力
- つとめ 地域で暮らしを支えあう力
- つながり 志をともにする仲間との出会い



カリキュラムを通じて、こんな力が身につきます

- ◆ 地元の方やIターンした先輩たちとの交流を通して、地域資源を活用しながら、自ら暮らしを創る力を養います。
- ◆ 地元学や聞き書きを通して、地域を知り、地域に愛着をもち、地域に溶け込むとはどういうことかを体感します。
- ◆ 地域の課題やその解決への模索、実践などを通して、新たな「なりわい」を構想していく力を養います。
- ◆ 講座や活動を共にし、自ら一歩を踏み出す勇気を得るとともに、同じ志をもつ仲間をつくります。



1年目「基礎講座」

〔地域をみつめ、地域に学ぶ〕

- 第1回 (6月11～12日) 入塾式／集落をあるく・みる・きく
- 第2回 (7月9～10日) 地域の産業と暮らし～食と農～
- 第3回 (8月6～7日) 地域の産業と暮らし～林業とバイオマス～
- 第4回 (9月3～4日) 地域のお年寄りに聞く

〔これからの社会を考える〕

- 第5回 (10月1～2日) 先輩の話聞く
- 第6回 (11月12～13日) 地域コミュニティと自治
- 第7回 (12月3～4日) 農山村の未来を考える～地域と経済～
- 第8回 (1月28～29日) 卒塾式～自分でみつける「豊かさ」と「幸せ」の基準～

2年目「実践講座」

※2年目「実践講座」は、仲間とともに、地域の課題やその解決を模索するプロジェクトプランを実践し、新たな「なりわい」を構想する力を養います。(全5回の講座を予定／参加は任意)

塾長

洪澤 寿一



稼ぐための職業から
生きるための
生業(なりわい)へ

「働く」という言葉の意味は何でしょうか。語源は、「傍(はた)を楽にする」だといわれています。「はた」というのは、あなたの傍らにいる人のことです。つまり、料理をするのも子育てすることも「働く」だし、集落総出で草刈りをするのも「働く」でした。ところがいつの間にか、働くことは「お金を稼ぐこと」になりました。水も、食料も、エネルギーも、そして教育や医療、福祉、さらに暮らしの安全や安心も、お金で「買う」のが当たり前になったのが今の暮らしです。

日本は、いわゆる高度経済成長期以降、工業製品を海外に「売る」代わりに、食料やエネルギーを海外から「買う」ようになりました。経済のグローバル化は、環境破壊を引き起こし、貧富の格差も広がっています。お金だけのために、何か大切なものを犠牲にしているのではないのでしょうか。

もともと、日本人の暮らしは「お金」によってではなく、「身近な自然」と「コミュニティ」に支えられていました。「百姓」という言葉に象徴されるように、多種多様な生業を組み合わせながら働き、家族を養ってきました。暮らしは「買うもの」ではなく、「つくるもの」だったのです。

当塾は、真庭市をフィールドに、ローカルに根差した新たなライフスタイルを模索します。たとえば、食料やエネルギーを、ある程度は自給する。季節ごとに複数の仕事を組み合わせながら働く。地域の困りごとを自分の仕事に変える。それぞれの知恵やネットワークを持ち寄って、スモールビジネスを立ち上げる。そんな生き方、働き方の選択肢も私たちにはあるはずですよ。

あなたは、どこで、誰と、何をしたいと考えていますか。漠然とした「想い」をカタチにしましょう。夢と志ある皆さんの参加をお待ちしています。(NPO法人共存の森ネットワーク 理事長)

講師・メンター (予定)



塩見直紀さん (半農半X研究所)



伊藤洋志さん (LLPナリワイ)



小林加奈さん (松屋鮎女将/リンエン共同代表)



大岩功さん (はにわの森代表)



駒宮博男さん (NPO法人地域再生機構理事長)

京都府綾部市在住。33歳でUターンし、NPO法人里山わっと・あやべのスタッフとして都市農村交流事業等に携わる。21世紀の生き方・暮らし方として「半農半X(=天職)」のコンセプトを提唱。自給農に動しむ傍ら、国内外で講演や地域づくりのためのワークショップ等の活動を行う。

香川県丸亀市出身。京都大学大学院卒業。頭と体が丈夫になってやればやるほど仲間が育つ「ナリワイ」を実践。シェア・アトリエの運営、「モンゴル武者修行ツアー」のほか、「全国床張り協会」などギルド的団体運営も行う。著書に「ナリワイをつくる」「フルサトをつくる」など。

岡山県美作市生まれ。アメリカに留学し、野生動物について学ぶ。中和地区にIターンしてからは、野草・薬草の活用、里山資源の商品化、イラスト&デザイン、古い師など多様なナリワイを実践。かつて旅館だった空き家をDIYで改修し、カフェ兼仕事場「松屋館」を営む。

大阪生まれ。デンマークに留学後、イスラエルの共同体キブツで暮らし、帰国後は中学校の教員を務める。真庭なりわい塾に参加したことを機に、地域おこし協力隊に就任。現在は「はにわの森」を拠点に「暮らしを手作りする原体験」をモットーに森の体験プログラムを実践。

岐阜県恵那市に居を構え、食の自給を目指す。地域の自治の再生を通じて、持続可能な社会の実現を目指し、岐阜県郡上郡石徹白地区の小水力発電プロジェクトなど各地の活動を支援してきた。愛知県豊田市では、塾長の洪澤とともに「豊森なりわい塾」の運営に携わってきた。

※このほか、コミュニティデザインや山村起業の実践者など、さまざまな講師を予定しています。

塾の先輩たち

これまで参加した塾生は、20代～30代が中心で男女比はほぼ半々、岡山県内在住者のほか、半数以上は、大阪、京都などから毎月、通いました。講座は週末に開催するため、多くの塾生は、地区内のコミュニティハウス等に宿泊。地域の皆さんとも交流しながら過ごします。卒塾した先輩の中には、真庭への移住を決めた人も！そのほか、鳥根や三重など、各地の農山村にIターンした先輩たちもいます。将来の夢も不安も、何でも語り合える仲間とさまざまなネットワークを得られることも、真庭なりわい塾の魅力のひとつです。



真庭なりわい塾の一年

各回の講座は、月1回、現地で開催します。(毎月土日開催:座学やフィールドワーク、ワークショップ等)

1年目「基礎講座」

6月 入塾式 集落をあるく・みる・きく

中和地区の集落を、グループごとに地元の人と一緒に歩いて、見てまわりながら、日々の営みの積み重ねや集落ごとの成り立ちを学んでいきます。

7月 地域の産業と暮らし～食と農～

昔の暮らしをよく知るお宅を訪ね、食の変化や日々の農業について聞き取りをします。自給のための「農」と、産業としての「農業」の違いについても学びます。

8月 地域の産業と暮らし～林業とバイオマス～

森は、私たちの暮らしに、さまざまな恵みを与えてくれます。林業の現状や「バイオマスタウン真庭」の成り立ちを含め、森と人の暮らしのつながりをトータルに学びます。

9月 地域のお年寄りに聞く

戦争を経験し、戦後の復興や高度経済成長期を生きてきたご高齢の方の人生を聞き書きし、この地に生きてきた人の想いと歴史を学びます。

10月 先輩の話聞く

地域にIターンした先輩たちの生き方、働き方について学びます。塾生一人ひとりの夢を語り合い、ナリワイづくりのヒントを探すワークショップも行います。

11月 地域コミュニティと自治

地域には、さまざまな祭礼行事や共同作業があります。教育や福祉などの公共サービスについても学びながら、地域単位の自治の大切さ考えます。

12月 農山村の未来を考える～地域と経済～

グローバル経済と地域経済に関する総括講義とあわせて、塾生一人ひとりが自身のナリワイを構想し、持続可能なライフスタイルを考えるワークショップを行います。

1月 卒塾式～自分でみつける「豊かさ」と「幸せ」の基準～

「X年後のわたし」と題して、これからの生き方・働き方を、一人ひとりの塾生が発表します。約半年間の講座で学んだこと、積み重ねてきたことの集大成です。

2年目「実践講座」(参加は任意)

里山資源の活用や自然栽培の実践、特産品開発、空き家活用など、塾生の希望に応じて、複数のプロジェクトに分かれ、実践形式で学んでいきます。